

ジュニア賞

インクルーシブな学校をつくろう

高橋 杏里紗 (高校3年生：北海道)

このゲームは、学校にいる様々な子どものニーズに、適切な対処をしながら学校を作っていくというものだ。

まず初めに、何人かでグループになり、プレイヤー達は学校の校長先生となる。

ゲームの箱には、真っ新な学校の見取り図・75人の子どもの特徴とニーズが書かれたカード・設備の名前が書かれたカード・道具の名前が書かれたカードが入っている。

プレイヤーはまず、何人の子供たちを考慮に入れるかを決める。この時、75人に近い数を設定するほど、考慮しなければならない要件が増えて、難易度が上がる。

その後、1枚ずつカードをめくり、道具カードや設備の名前カードを駆使してその子に対応した環境を考える。全員分の対処法を考えたら、他のグループの作った学校と比較しながら、改善点などを話し合うというゲームだ。

具体例を挙げると、例えばめくった子どもカードが

「重度のナッツアレルギーのため、みんなと同じ教室でご飯を食べることができない○ちゃん」ならば、設備の名前カードから「ナッツ禁止ルーム」や、道具カードから「ナッツが食べられませんと書かれたシール」を選んで、それを学校の一角に設置したり、○ちゃんのカードに貼ったりする。また、「足が不自由な▲くん」だったならば、設備の名前カードから「スロープ」や「エレベーター」を選ぶことができる。この例から分かるように、このゲームの解答は1つではなく、すべてのニーズに対応してもさらに、他のグループと見比べて改善点を見つけられる。なお、1人1人の子供に対して、そのニーズを解決する模範解答がゲームの箱に用意されている。

このゲームの目的は、相手の気持ちになりきって、班の人と協力しながら新しいアイデアを見つけしていくということだ。世界には、様々な特色を持った人がいて、多様性を受け入れる姿勢はとても大切だ。そのため、このゲームを通して、皆が生きやすい場所を作る必要があることを知ってほしいと考えた。